



つつじ会だより

静岡県在宅保健師の会「つつじ会」
No. 30 令和4年度

会長挨拶

創立 30 周年を迎え、

新たな一步を踏み出しました



鈴木 富士子

桜の便りが次々と聞かれるこの折、会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

2020 年 1 月に始まった新型コロナウイルスとの闘いは、4 年目に入りました。現場の保健師業務は、今なおコロナに係る対応にご苦勞されながらのことと推察致します。WHO は「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を継続すると発表、一方で「転換点」に差しかかっている可能性が高いとしています。日本では新型コロナウイルスの感染症法上の分類が、5 月 8 日に 5 類へ引き下げられますが、医療現場では理解と懸念の声があります。

本会も活動を縮小してきましたが、全体研修会と学習会はハイブリッド形式で開催し、国保連合会の保健事業（家庭訪問事業）にも、感染予防対策を取りながら参加、継続してきました。今年度は裾野市のご協力のもと実施致しました、感謝申し上げます。

近年、2019 年の台風 19 号や 2020 年 7 月豪雨等、記録的大雨による土砂災害や水害が各地で起きています。静岡県でも 2021 年 7 月の熱海市土石流災害や、昨年の台風 15 号の大雨により甚大な被害がありました。被災された方々の暮らしへの影響は大きく長期化しています。心よりお見舞い申し上げますとともに、1 日も早い復旧を願っております。今年に関東大震災から 100 年であり、南海トラフ巨大地震への備えはもとより、台風の激甚化や黒潮大蛇行の影響による大雨災害にも備える必要があります。

今年度の学習会のテーマは「災害支援活動における保健師の役割」とし、講師に静岡県健康福祉部健康局健康増進課課長 島村通子氏をお迎えしました。「被災した市町は、新型コロナウイルス感染予防対策と通常業務の両方を続けながら災害対応にも奔走している、保健師の手は足りない。通常業務の支援も重要な支援である。」と、お話がありました。会員の多くが非常勤や再雇用として仕事をしておりますが、平時の業務をしっかりと行うことも非常時の支援に繋がると、改めて気づかされました。台風 15 号の教訓から自助・共助の重要性和平時の業務の大切さを再認識し、今後も会員のスキルアップのための研修を充実していきたいと思ひます。

最後に、「つつじ会」は第 72 回保健文化賞を受賞、令和 5 年 1 月 13 日には設立 30 周年を迎え、新しい一步を歩み出したところです。（令和 4 年 9 月発行の「つつじ会だより号外」をご覧ください）

設立当初の「保健師として少しでも住民の皆様や市町のお役に立ちたい」という先輩の方々の思いを受け継ぎ、国保連合会事務局の皆様と協働しながら、家庭訪問事業を次代へ繋いで参りたいと思ひます。今後ともご支援ご協力の程、よろしくお願い致します。

事業名「特定健診受診者のフォローアップ等家庭訪問事業」

目的: 特定健診の結果、受診勧奨判定値を超えたにもかかわらず医療機関を受診していない方に対し家庭訪問を実施し、「かかりつけ医」への受診勧奨を行うとともに、必要に応じて生活習慣の改善に向けた助言を行い、生活習慣病の発症予防・重症化予防を図る。

内容: ①訪問対象者に対し、実態を調査し医療機関への受診勧奨を行う。
 ②生活習慣病の一次予防として、必要に応じた生活習慣の改善に向けた助言を行う。
 ③訪問対象保険者の保健・福祉サービス等の情報提供を行う等。

令和4年度の家庭訪問事業は、特定健診受診者のフォローアップとして、裾野市で実施しました。

裾野市は県東部、富士山のふもとに広がり東に箱根外輪山、西には愛鷹連山と、豊かな自然に囲まれた工業のまちで、最近では民間による未来都市実証実験が計画されていることで話題を呼んでいます。

人口は 50,131 人、高齢化率は 27.9% (令和3年4月1日時点)、国保加入率は 29.16% (世帯ベース) と県内でも若い世代の多い市です。

7月28日に裾野市と国保連合会、訪問保健師で事前打合せを行い、6人の保健師により、裾野市から依頼のあった、訪問件数46件に対し45人に訪問指導を行いました。65歳から74歳までを対象年齢とし、特定健診結果は収縮期血圧140以上・拡張期血圧90以上、中性脂肪300以上、LDL200以上、空腹時血糖200以上、HbA1c6.5以上等を目安に抽出した要医療レベルで、レセプト情報をもとにハイリスクの方が選定されました。

家庭訪問事業報告会を3月7日に実施し、全体の振り返りと引継ぎの必要なケースの連絡を行いました。

ほとんどの方は、受入れがよく室内で健診結果の説明や治療の必要性、生活習慣の改善等聴いていただきました。これまでの市の保健師活動が住民に認知されていることもうかがえました。

個別のケースでは、男女とも会社勤めしていた方が多く、健康への意識・知識は高いものの、自己管理できると考え治療を避けていたり、自覚症状が無いため異常値を放置していたりと、健診は受けても要治療の結果に足踏みしている方がおられました。訪問後の医療機関受診状況は、9人(20%)で、例年より高い割合でした。また、2年連続健診受診者は、84%でした。

私自身は、市役所から離れた地域や別荘地を担当し、初対面の保健師の訪問指導はどれほどの成果があるかという不安を抱いていました。経験を積んだ市町保健師であっても訪問に関しては経験が少なくなり、今後は訪問される側も未経験者が増え受入れに不安を抱く方が増えてくることが考えられます。またコロナ禍の影響やデジタル化の進展などの社会情勢を鑑みても、訪問指導の役割や評価はより一層難しくなってくると思われれます。

当会の在宅保健師が単年度で関わる当事業は、なおさらだと思いますが、対象となった市町の構造化された保健事業の中でどの部分にあたるのか、その後どのようなアプローチ方法があるのかといったところまで見通しを持てていたらと私自身反省しつつ、対象市町や国保連合会での資料準備や事前打合せの重要性を再認識しました。また、訪問時の対象者の感想や意識の変化の把握、その後のレセプト情報、次年度健診結果などの経過から見える評価を関係者が共有してより良い事業体制となるよう望むとともに、私達在宅保健師もその一助となれるよう研鑽に努めたいと思います。

裾野市及び国保連合会の皆さまには、大変お世話になり、今年度の訪問事業が有意義に終了したことに感謝申し上げます。

東部地区：米山民恵



第81回日本公衆衛生学会に参加して

- 日 時：令和4年10月7日～9日
- 場 所：山梨県甲府市 YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館
- 参加者：鈴木 文子(中部)、八田 美恵子(中部)、森 輝乃(国保連合会)

「公衆衛生イノベーションー原点確認、変革推進ー」というテーマで、山梨県甲府市会場とオンラインによるハイブリッド形式で開催され、その後オンデマンド配信もされました。期間中は、特別講演・教育講演・シンポジウム・一般演題（口演、示説）など1229の多彩な内容について、発表や議論が行われました。

《講演報告 注目した講演内容の一部分を要約》

- 学会長講演 研究は住民にはじまり住民におわる
山縣然太朗（山梨大学）

山梨県の母子保健縦断調査「甲州プロジェクト」は、客観的根拠に基づく保健活動をしたいという保健師の発案で始まり、35年継続している。

- 特別講演 新型コロナこれまでとこれから
尾身茂（公益財団法人結核予防会・2020年より新型コロナウイルス感染症対策分科会分科会長）

我が国の対策は、危機管理の原則に基づいて対応していくべきだが、反省すべき所があった。人口10万人あたりの感染者数・死亡者数はOECD諸国の中で最も低い。保健所、衛生研究所、公衆衛生のプロの果たした役割は大きく、敬意を表したい。対策について①医療・保健の頑張り②一般市民への情報効果③批判はあるが国の状況に応じた微調整を評価。提言は70以上に及ぶ。今後、日本版CDCが期待され、それには、県境を越えた専門家・官民学のネットワークの構築が必要。

- メインシンポジウム

新型コロナウイルス感染症の実像と対策
押谷仁（東北大学）、西浦博（京都大学）、阿南英明（神奈川県庁、藤沢市民病院）、渋谷克彦（帝京大学）

2022年10月4日までにアメリカ100万人以上、英19万人、日本4万5千人の死者。第5波まではリスクアセスメントに基づくリスクマネジメントができている。第6波の死因からコロナウイルスに循環器疾患が誘発されることが分かっている。東京都保健所管内で、第5波は、7割感染源不明・20～30代社会活動活発な層の3割が発症日以降も外出というデータ報告。

《演題報告 注目した講演の演題のみ》

- ・国民健康づくり運動の成果と課題、次期計画のあり方（信州母子保健推進センターの役割と取組 等）
- ・川崎病との40年
- ・ビッグデータで考える日本の医療と介護のこれから
- ・思春期・成人期につながるエコチル調査の未来
- ・子供たちのスマートフォン依存を予防するために

《所感》

公衆衛生学会に参加して、多くの新しい情報を得ることができ、広い視野から学ぶことがたくさんあった。情報が膨大にあるので、この紙面では一部の報告となる。会場で発表者から直接話を聞くと、生の声から考えを身近に感じ、感慨深かった。顔を見て話すことの重要性もあらためて感じた。IT社会となりAI導入によりビッグデータが収集・分析できた研究結果が多数あり、エビデンスに基づく政策提言がされている。それらは、現場と上手く結びつくと公衆衛生が向上するのだと思う。住民の声を直接聴き保健指導をする保健師活動の意義についても再確認できる機会となった。

このような機会を与えていただいた静岡県国保連合会とつづじ会に心より感謝申し上げます。

中部地区：八田美恵子



- 開催 令和5年1月31日（静岡県国保連合会別館第1・2会議室）
- 講師 静岡県健康福祉部 健康局 健康増進課 課長 島村通子 氏
- 内容 ①講演：「災害時保健活動の概要とポイント」



熱海市伊豆山土石流災害の支援をもとに、健康課題やフェーズに合わせた支援、他職種との連携について御講演いただきました。

- ②意見交換：昨年発生した台風15号で被災した清水区の会員3名に、実体験を発表いただき、これからの活動について、参加者全員で考える機会となりました。

講演の様子



意見交換の様子



液体ミルクの試飲



学習会後の感想

- 保健師の職能について再確認しました。被災直後よりも、時間が経過した後の健康支援プレイヤーとして日頃の活動でお役に立てるのではと思いました。なじみなく回避していたところが大きいですが、考えるきっかけになりました。
- 身近な課題であり、今後の支援を考える機会となった。平時の活動を常に大切にすることを思いました。
- 災害が自分に起こらないと実感がなく、薄れていきますが、講演や報告を聴くことができ、意識をあらたにしました。
- とても参考になりました。でも、具体的にどこからどう手をつけてよいのか？考えさせられます。総合的にいろいろな医療従事者の力をあわせる方法を平時のうちに構築・勉強しておくことが大切と思いました。本日は、熱海市や清水区の災害状況、活動状況について学び、身につまされた気持ちですが、研修・実践していくことが大切と思います。
- 災害の在り方はさまざま。支援もフェーズに沿い、行われている。まず自分の体は自分で守る(自助)が大切と感じた。
- 保健師の視点が必要であると感じました。日頃の姿勢が災害時に繋がることを念頭に仕事にのぞみたいと思います。
- 清水の被災状況の報告はとても有意義でした。
- 災害時の保健活動について、改めて考える機会となりました。今まで気が付かなかった視点もいただきました。今回、自分の経験をまとめる事でもよりよい振り返りができました。
- 災害時、本当に必要な支援を届けることが大切と思いました。平時の活動を大切に仕事や生活をしようと思います。保健師は「公衆衛生・健康づくり・予防的視点・人と人をつなぐ看護職である。」という言葉聞いて嬉しかったです。また、生活の再建の為に相当な時間を要しますが、「保健師なら人の中に入り、関われる」これも嬉しかったです。
- つつじ会として、自助としても災害を考える機会を与えていただき、感謝しています。島村課長、清水区の会員から、災害活動に携わった生の声は、とても貴重でした。今後もつつじ会として、学ぶ必要性を感じました。
- 生の声が聴けて、日頃の備えが大切と感じました。日常に戻るまでも、思っていた以上に時間がかかることも改めて知りました。つつじ会ができることは限られるが、「ある」ということを課長さんのお話で知ることができました。
- 災害の時の様子がわかり、良かった。いつどこでどんな災害が起こるかわかりませんが、対策は細かく、人材活用も多く等々、対策が必要で大事ですね。たくさんの資料ありがとうございました。縦と横のつながりが大事ですね。
- 県の健康増進課・島村課長を講師にお迎えし、実際の支援状況を直接お聞きすることができ参考になった。熱海市の災害支援活動時は、全国保健師長会「災害時の保健師活動推進マニュアル」をもとにして活動したとのこと。コロナ禍で県外からの支援はお断りし県内市町・団体で支援に入ったが、保健師の人員は足りなかったとのこと。通常の業務をサポートすることも重要な支援となるお話があったが、会員のほとんどが正にそういう支援をしていたと思う。清水区の3名の会員には被災者の具体的な状況について話をしてもらい、資料の提供もあり感謝している。

健やか親子21厚生労働大臣表彰

「令和4年度 健やか親子21全国大会」が島根県で開催され、母子保健・家族計画功労者に雑賀崇子さんが表彰されました。民生委員・児童委員として、子ども食堂も中心となり運営されています。長年の活動に敬意を表します。

今回の受賞に際し改めて心も身も引き締まる思い、身に余る光栄な思いです！保健助産学科を卒業して早や50年！少しでも皆様の健康で幸せな人生に寄り添い手助けができたらの熱い思いで、各地の市町村で保健師ひとすじに歩んできました。

その間、結婚、4人の子育ての中5.6年お休みし、その後は非常勤として細々と続けて参りました。なかなか新しい専門情報が入らず不安な時に「つつじ会」に入会させて頂き、同じ立場で働く多くの仲間と出会い、学習会もありとても心強く有難いことでした。こうして長く続けて来れたのは家族、親達の協力、そして回りの多くの方々の手助け支援のお陰です。つくづく感謝です！この受賞は私の回りのそうした方々と一緒に頂けたご褒美だと思います。今後も微力ながら少しでもお役に立てるように過ごしていきたいものです。

東部地区：雑賀崇子



令和5年2月 清水町役場にて

つつじ会 会員からの寄稿

一期一会に感謝して

西部地区 木下 美恵子

「つつじ会」が設立して30年。その当時、保育園児だった娘が昨年末に第2子を出産しました。他県に住み核家族、上の孫娘の生活もあり「ばあば」の出番です。年末年始から娘宅での新生活、自宅を離れての生活は心配なこともありながら、娘や孫たちの側にいて成長も見られるとても幸せな貴重な時間でした。産まれたばかりの小さな生命、一生懸命おっぱいを飲み力いっぱい大声で泣く、天使のような笑み愛らしい寝顔、たっぷり癒され元気をもらえた感動の出会いです。

2つ目の出会いは6月3日、日本平ホテルでの「つつじ会設立30周年及び保健文化賞受賞記念式典」です。初代会長松下様はじめ国保中央会、静岡県、国保連合会事務局の皆様や会員の皆様にお目にかかれた事です。とても和やかに楽しい時間を過ごさせて頂き、感謝して居ります。保健師という職業で繋がるこのご縁を大切に、自分自身も学習会等に参加させて頂きながらスキルアップをし、何かお役に立てればと再認識する機会となりました。「つつじ会」を設立し30年

の長期に渡る活動を継続し、関わってくださった全ての皆様に感謝致します。

3つ目は何かと口実をつけ先延ばしにしてきた、自宅の一部改修の際の事です。我が家の事情をふまえ、生活と工事を同時進行で進めて下さった大工さんチームとの出会いです。職人さん達は皆、後期高齢者。他職種の方々の作業を間近で見せて頂ける良い体験もでき、生き生き元気に年を重ね、持続可能な方々に元気をもらえる出会いでした。この一年の出会い、本当にありがとうございました。

最後になります、ヘレン・ケラーの名言に「幸せの扉が閉じる時、他の扉が開きます。しかし私達は閉じた扉ばかり見て、開いている扉に気づかないのです。世の中には苦しいことで一杯ですが、それに打ち勝つことにも満ち溢れています。」とあります。

新しい年は皆で「幸せの扉」を希望を持って開ける事ができる、良い年でありますようにと願っています。

<令和4年度事業状況>

- ・ 令和4年6月3日 総会、設立30周年・保健文化賞受賞記念式典（日本平ホテル）
- ・ 令和4年10月7～9日 第81回 日本公衆衛生学会（山梨県）
- ・ 令和5年1月31日 学習会 「災害時保健活動の概要とポイント」
- ・ 役員会（随時）
- ・ 国保連合会保険者支援事業への協力
特定健診受診者のフォローアップ等家庭訪問事業（裾野市） …協力者6名
- ・ 保健所支援 …協力者1名
- ・ 静岡県発熱等受診相談センターへの協力 …1名
- ・ 静岡県職員採用試験第1次試験 救護員（静岡県庁別館） …協力者1名



令和4年6月3日「つつじ会」総会にて

「つつじ会」会員募集

つつじ会では、今までの経験を活かし、一緒に活動していただける方を随時募集しています。身近に関心のある方がいらっしゃいましたら、つつじ会役員まで御連絡ください。1月1日現在の会員数は34名です。

☆静岡県国保連合会ホームページ内のつつじ会案内もぜひご覧ください。



編集後記

春の訪れとともに、出会いと別れの季節を迎えました。

コロナ禍で制約の多い生活も3年が過ぎ、つつじ会の事業も縮小や変更を余儀なくされましたが、家庭訪問は毎年継続することが出来、昨年は設立30周年及び保健文化賞受賞記念式典を盛大に開催することが出来ましたこと、皆様のご協力に感謝致します。

来年度は役員の変更があります。今後も先輩たちの思いを受け継ぎ、住民に寄り添う活動ができるよう願うとともに、新しい風が吹き込まれることを楽しみにしています。

お忙しい中、会報の発行にあたり原稿をお寄せくださった皆様、また、日頃よりつつじ会を支えてくださる事務局の皆様には感謝申し上げます。

東部地区：土屋優子

令和5年3月発行

発行責任者：静岡県在宅保健師の会

「つつじ会」会長 鈴木富士子

発行者：静岡県国民健康保険団体連合会 総務部 事業課

〒420-8558 静岡市葵区春日2-4-34

TEL 054-253-5576 FAX 054-253-5507



つつじ会だより

静岡県在宅保健師の会「つつじ会」
設立 30 周年・保健文化賞受賞記念式典 号外

富士山を眺望できる天候にも恵まれ、令和 4 年 6 月 3 日(金)日本平ホテル(静岡市清水区)に於いて、静岡県在宅保健師の会「つつじ会」設立 30 周年及び第 72 回保健文化賞受賞記念式典を開催しました。国保中央会理事長 原 勝則 氏、静岡県健康福祉部部長代理 後藤 雄介 氏を来賓にお迎えし、つつじ会OG・現会員ほか総勢 54 名の出席のもと、盛大に行われました。式典の様子をお伝えいたします。

主催者挨拶

<国保連合会理事長(富士宮市長) 須藤 秀忠>

平成 5 年のつつじ会設立以来、本会及び国保保険者における保健事業の支援をはじめ、地域住民の健康づくりに尽力いただいている。家庭訪問事業においては、延べ 1 万 5 千人を超える方々へ訪問し、健康寿命の延伸に貢献されてきたことに感謝申し上げます。

現在の保険者の状況は、マンパワーの確保が十分ではなく、今後在宅保健師の保健活動への期待が重要となること、また人生 100 年時代を迎え、制度的には「後期高齢者」と言われるが、誰もが光輝く「高輝」を放ち、香り麗しい「香麗者」として活躍できるようにこれからも支援いただきたい。

<つつじ会会長 鈴木 富士子>

本日の式典にご臨席いただいた来賓の皆様、行政関係者並びに地域の皆様、つつじ会の諸先輩方に対し、日頃からご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

つつじ会設立 30 周年という節目に保健文化賞受賞という栄誉に輝き、天皇皇后両陛下に拝謁し、活動の継続について励ましのお言葉を賜った。「保健師が行う家庭訪問は意義がある」と認めていただいたことは非常に感慨深い。つつじ会の活動の根底にある「先輩の方々の保健師としての強い信念と地域・住民への深い思い」を受け継ぎ、今後も市町に対して私たちにできることを地道に続けていきたい。



来賓祝辞

<静岡県健康福祉部部長代理 後藤 雄介 氏>

つつじ会の長年にわたる家庭訪問等の保健活動は、地域住民の生活習慣病の重症化予防や介護予防、静岡県の健康寿命の延伸に貢献していただいている。

今回の保健文化賞受賞は、つつじ会の活動が市町と住民を繋ぐ架け橋となり、地域の健康づくりを進めてきたことが高く評価された。

県民総ぐるみの健康づくりを推進するためには、地域の課題を正確に把握することや、関係機関との連携は益々重要で、在宅保健師として活動されてきた皆様の知見や協力が欠かせない。

設立 30 周年及び保健文化賞受賞を機に、皆様の活動がさらに発展されることを期待する。



国保中央会 原理事長による記念講演

「人生 100 年時代における在宅保健師の役割」

～地域に寄り添い 30 年、これからの活動に期待すること～

国民健康保険中央会 理事長 原 勝則 氏による記念講演が行われ、地域包括ケアシステムや地域共生社会の構築は、地域づくりであり、「在宅保健師等の皆さんは、地域の健康づくりの主役であり、相談役です！」と在宅保健師の活動に対する期待を語っていただきました。



I 人生 100 年時代とこれからの保健事業

- ・ 100 歳まで生きるのが普通となる時代
超長寿社会の到来
- ・ 全世代型社会保障改革
人生 100 年時代の到来をチャンスとして前向きに捉え、働き方の変化を中心に据えて、年金、医療、介護、社会保障全般にわたる改革を進める。これにより、現役世代の負担上昇を抑えながら、令和の未来をしっかりと見据えた、全ての世代が安心できる社会保障制度を構想する。

II 「自助と互助の取組」から「高齢者の保健事業と介護予防の一体実施」へ

- ・ 地域包括システムの構築
自助(健康づくり・介護予防)と互助(生活支援・住民主体の支え合い)
- ・ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施(令和 2 年 4 月開始)

III 保健事業の最近の動きとデータヘルスの推進

- ・ 「新たな生活様式」に対応した予防・健康づくり、重症化予防の推進
- ・ ポピュレーションアプローチの強化
- ・ 無関心層や特定健診受診率の低い 40～50 歳代の受診に向けた取組強化
- ・ 都道府県の役割の強化

IV これからの保健事業の方向と在宅保健師等会への期待

- ・ データヘルスの推進 … ビッグデータ、KDB システム等の利活用
- ・ 生涯を通じた健康づくり … 保険者間の医療・健診等の情報連携
- ・ 地域づくり … 地域包括ケアシステムや地域共生社会の構築は、「地域づくり」

最後に「私見」として今後の保健事業における在宅保健師への熱い期待を語られました。

- ・ ご自身も地域の中で住民の一人として健康に暮らす、そして専門家として培った知識・経験を活かしてほしい。
「地域の健康づくり」にぜひとも関わってほしい。
- ・ 在宅保健師の会の活動を支援する国保連合会に期待する。



つつじ会 交流会

記念講演の後は、昼食をはさみながら、つつじ会初代会長 松下とき子さん (94歳・磐田市)をはじめとしたOGの皆さんと現会員の交流会が行われました。「思い出のスライド」の上映やこれまでの活動に関するインタビューもあり、終始和やかな雰囲気の中、進行了しました。



乾杯挨拶 山田 副会長



OG・会員10名に
インタビューしました



つつじ会の活動の思い出やエピソード等、多くのお話を伺いました。そこには対象者の思いを傾聴し、寄り添う保健師の姿勢が根底にありました。また、つつじ会に入会したいきさつや年齢もキャリアも違う中で「保健師」という共通の職種で繋がり、励まし合い、高め合いながら会が存続してきたことを感じました。そして、地域での具体的な実践例をお聞きし、保健師職は地道な仕事の積み重ねであると改めて気づかされ、深く共感しました。





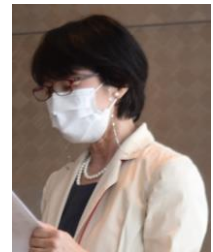
閉会挨拶

閉会にあたり土屋副会長から、『超高齢化社会の課題は健康寿命を延伸し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現にある。令和6年度までに全ての市町村が展開することを目指している「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」について、高齢者の健康状態不明者の家庭訪問や高齢者の重症化予防の家庭訪問、通いの場での健康相談等で、つつじ会も今後関わっていけると考えている。

評価していただいた「保健師が行う家庭訪問」をこれからも高めていきたい。』と今後の「つつじ会」の活動について思いを込めた挨拶がありました。

～終わりに～

皆様からいただいたお言葉を胸に、今後も時代に即した活動を継続できるよう、会員・事務局・関係者一同で協力していきたいと思っております。
何卒よろしくお願い申し上げます。



閉会挨拶 土屋副会長

